

国際STEAMワークショップ^o in Fukushima 2025 結果概要

原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）

イベント概要

目的

- 次世代の科学技術を担う**STEAM** ※**人材の拡充・育成**を目的に、国内外から科学者・技術者をメンターとして招き、グループディスカッションやメンターの講演を通じて、**自分自身の将来像 / 科学技術のあるべき姿**について考えてもらう。
- 福島第一原子力発電所や伝承館の視察などから**福島の復興や廃炉の現状**を知ってもらい、何かを感じてもらう。

※**STEAM** : **Science、Technology、Engineering、Mathematic**に、**Arts（芸術、教養）**を加えその頭文字をとったもの。
各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的なSTEAM教育の推進が、文科省の科学技術・イノベーション基本計画でもうたわれている。



開催概要

- ◆ **日程** 8月16日（土）、17日（日） ※8月18日（月）1F視察（希望者のみ）
- ◆ **場所** 双葉町産業交流センター（F-BICC）
- ◆ **参加者** 生徒・引率先生 91名
福島県内の高校生（39名）福島県外の高校生（17名）
海外高校生（英国 4名）海外大学院生（米国4名）
引率先生（国内12名、英国2名）メンター等（国内8名、海外5名）
- ◆ **後援** 福島県教育委員会、双葉町、福島国際研究教育機構(F-REI)
- ◆ **協力** 産業技術総合研究所、マサチューセッツ工科大学、Imperial College London、福島大学

◆参加高校

県内10校

福島工業高等専門学校、原町高等学校、磐城高等学校
安積高等学校、安積黎明高等学校、あさか開成高等学校
須賀川創英館高等学校、須賀川桐陽高等学校
白河高等学校、会津学鳳高等学校

県外 9校

お茶の水女子大学附属高等学校
東京都立戸山高等学校
前橋女子高等学校、水戸第二高等学校
福井県立藤島高等学校
大阪府立高津高等学校、大阪府立北野高等学校
大阪府立生野高等学校、大阪府立天王寺高等学校



アドバイザー、議長



国内シニアアドバイザー
室伏 きみ子
お茶の水女子大学 名誉教授・前学長



海外シニアアドバイザー
ロビン・グリムス
インペリアル・カレッジ・ロンドン 教授



国内共同議長
山崎 光悦
福島国際研究教育機構(F-REI) 理事
長
金沢大学 前学長



海外共同議長/海外メンター
フィオナ・レイモン
英国立原子力研究所 (NNL)
前主席科学者



特別講師
渡辺 美代子
日本大学 常務理事



特別講師
高村 昇
東日本大震災・原子力災害伝承館 館長
/ 長崎大学 教授



<オンライン登壇>
特別講師
佐々木 成江
東北大学DEI推進センター 教授

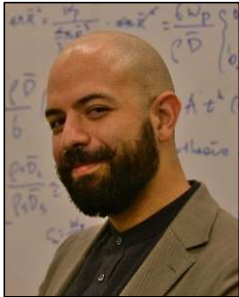
メンター



国内メンター
廣瀬 史子
宇宙航空研究開発機構 (JAXA)



海外メンター
西岡 沙織
サントリーホールディングス



国内メンター
ダニエル・グティエレス・デル・リオ
沖縄科学技術大学院大学 (OIST)



国内メンター
武田 伸一郎
福島国際研究教育機構 (F-REI) /
東大カブリ数物連携宇宙研究機構



国内メンター
二瓶 直登
福島大学食農学類農業生産学コース
教授



国内メンター
藤原 健
産業技術総合研究所 (AIST)



海外メンター
村上・ウェインライト・治子
マサチューセッツ工科大学 (MIT) 助教



海外メンター
ヴェロニク・ローヤー
経済開発協力機構 原子力局
(OECD/NEA)

テーマ・プログラム

テーマ

メンターと考える私たちの未来

Day1

- 開会挨拶 / 来賓挨拶
- 基調講演 (20分 x 2)
- メンター講演 (15分 x 5)
- MIT大学院生プレゼン
- 特別講演
- グループディスカッション①、発表
- 伝承館見学 (高村館長講演含む)
- レセプション

Day2

- 特別講演
- メンター講演 (15分 x 4)
- 海外生徒プレゼン
- グループディスカッション②、発表
- ラウンドテーブルミーティング
- 浅野燃糸工場見学 (希望者のみ)

Day3

- 福島第一原子力発電所視察 (希望者のみ)



プログラム・アジェンダ (Day 1-①)

プログラム

アジェンダ(実施概要)

開会挨拶
(主催者、シニアアドバイザー、来賓)

NDFおよびシニアアドバイザーの室伏先生より、本プログラム開催の意義を含めた開会挨拶を行いました。また開催地である双葉町長に来賓のご挨拶をいただきました。

基調講演
(各20分)

国内・海外両議長より、これまでのキャリア紹介に加えて、次世代が理工系で活躍することの重要性などについて基調講演をいただきました。

グループディスカッション
(男女別、90分)

男女別のグループに分かれて、ディスカッションを行いました。メンターや他校の参加生徒たちと、将来の希望や悩み、不安などを共有しながら、自分の未来や進路などについても考えました。ディスカッションの後は、各グループ3分程度で話した内容を発表しました。

引率先生向けセッション

渡辺美代子先生に、日本の科学と未来をめぐる課題について講演いただいたあと、引率教諭とともに、生徒たちはSTEAM分野に導くことへの思いや、学校現場における課題についてディスカッションしました。

メンター講演
(各15分)

メンターのこれまでのキャリア、現在の仕事内容、家族のこと、趣味など自己紹介を交えながらの講演を実施。これまでのキャリアで悩んだことや分岐点での決断なども共有しながら、高校生へのメッセージを頂きました。



プログラム・アジェンダ (Day 1-②)

プログラム

アジェンダ(実施概要)

特別講演

東日本大震災・原子力災害伝承館の高村館長にご講演頂き、事故直後の地域住民とのリスクコミュニケーションのご経験や、福島における復興支援活動などについてお話し頂きました。

伝承館見学 (60分)

東日本大震災・原子力災害伝承館にて福島で起きた地震、津波、東京電力福島第一原発事故という未曾有の複合災害の実態や、復興に向けた歩みの展示を見学し、理解を深めました。

レセプション

交流を兼ねて、レセプションを行いメンターや他校からの参加者、英国からの生徒とコミュニケーションを図りました。また、冒頭では双葉町の伊澤町長から、事故当時の状況や復興に向けた取り組みや想いについてお話し頂きました。グループディスカッションを行ったグループごとに、メンターから参加生徒への参加証授与を行いました。



プログラム・アジェンダ (Day 2 -①)

プログラム

アジェンダ(実施概要)

特別講演 (20分)

Imperial College London のロビン・グライムス教授より、特別講演を頂きました。ご自身のキャリアや研究内容、2011年の事故当時に科学者として英国政府に対する助言を行った経験などをお話し頂きました。

メンター講演 (各15分)

DAY1に引き続き、メンターからこれまでのキャリア、現在の仕事内容、家族のこと、趣味など自己紹介を交えながらの講演、高校生へのメッセージを頂きました。

英国学生による プレゼンテーション (15分)

英国から参加の高校生 4 名によるプレゼンテーションを実施し、彼らの地元地域や学校での生活、日々の暮らしなどについて紹介してもらいました。

グループディスカッション (男女混合、90分)

2 日目は男女混合のグループでディスカッションを行いました。1日目とは違うメンター、生徒たちと、自身の将来や科学技術に関することなど、グループごとに様々なことをディスカッションを行いました。各グループによる発表の後、山崎国内議長に全体総括を頂きました。



プログラム・アジェンダ (Day 2 -② & Day 3)

プログラム

アジェンダ(実施概要)

ラウンドテーブル
ミーティング
(90分)

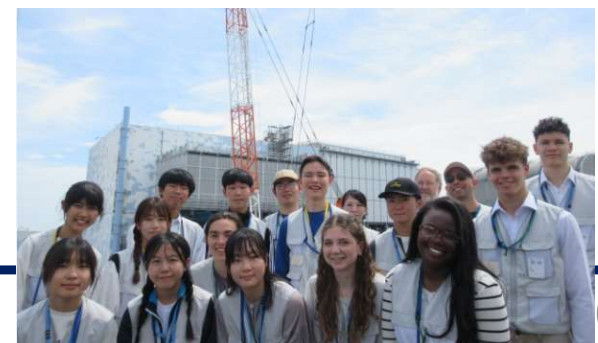
議長やアドバイザ、NDF山名理事長も含むメンター全員が前に座り、高校生からの質問に答えました。将来に関する悩みや相談、福島事故や復興、エネルギー政策、科学技術全般にかかる事項など、様々なトピックスで活発な議論が行われました。

浅野燃糸工場見学
(希望者のみ)

双葉町が整備した「双葉町中野地区復興産業拠点」に工場を構える浅野燃糸の視察を希望者を対象に実施。工場や機械の説明だけでなく、工場設立の経緯や復興に対する思いを、若手社員の方々から語っていただきました。

福島第一原子力発電
所視察
(希望者のみ)

Day3では、希望者のみを対象に福島第一原子力発電所の視察を実施。海外生徒、海外メンターを含む総勢60名が視察を行い、東電社員の方の説明を聞きながら、廃炉作業の現状をご自身の目で見てもらいました。



事後アンケート抜粋（生徒）

- 様々な分野の第一人者であるメンターの公演（しかも一人ではなくたくさんの）を聞くことができた。このような機会は一生ないと思い感動していました。
- レセプションを通していろんな人たちと話したり、仲良くなれて良かった
- 将来したいことが増えた。目標が明確になった。
- 失敗することばかり考えて挑戦できなかったことが多かったが、成功した時の喜びを考えて動けるようになった。緊張して消極的になりがちだったが、積極的になれた。
- 進路で悩みすぎていたので、メンターの方々の将来に対する温かい言葉を聞いて、少し気が楽になりました。
- 自分からアクティブに動くことの大切さを学びました。
- 自分が好きなことを追求することの大切さと、様々な職業についてよいということを学んだ
- 育児が女性の負担だから子供を産まない、女性が少ないから理系に行かない、などジェンダー差別で負の連鎖が起きており、思い返してみると私もそれを体感していると思った。だから、今まで優先度は低いと思っていたジェンダー平等実現に私も取り組みたいと思った。
- ちょっとだけ初対面の人とも話せるようになりました。

事後アンケート抜粋（引率先生）

- 国内外一線級の研究者がロールモデルとなって、自らのキャリアプランをもとに話を深めてくれるところが良かった。生徒にとっても、「研究者」というイメージしにくい世界に触れるきっかけになっていると感じます。
- 「実物」を見せることができた
- 福島県民としては、東日本大震災・原子力災害伝承館、浅野撚糸に訪問していただいたこと、実際に民家の灯りの少ない、夜の真っ暗な国道を走りホテルに移動したこと、地元の食材と一緒に食していただいたことは、非常に意義のあるものだと思います。双葉町長のお話も感慨深いものがありました。
- 特別講演、メンターの講演もとても素晴らしかった。福島から優秀な人材が育つように今後とも是非、継続して実施して欲しい。
- 最後のラウンドテーブルミーティングは大変有意義であった。1つの問いでもメンター方の意見が多様で、なぜそう考えているのかが明確であり面白かった。
- メンターが多く、様々な視点で考えられる利点がある一方、一人ひとりが一流の研究者なので、講演時間は短いと感じた。ワークショップ（性別ごと、男女混合）も内容を深堀させるには時間がもう少し必要かと思う。全体的に2日間でやるには、時間がタイトだったかと感じました。

メディア掲載

キャリア形成意見交わす NDF 生徒、学生にワークショップ



双葉 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)の国際STEMAMワークショップは16日、双葉町産業交流センターなどで始まった。県内外と英国の高校生、米国の大学生計約60人が参加し18日まで、理工学分野への進学や就職に関して意見を交わしている。

東京電力福島第一原発の廃炉をはじめとする復興に向けた課題解決を担う人材育成を目的としている。2019年から女子高生を対象に経済協力開発機構・原子力機関と共催してきたが対象を男女に広げた。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)研究開発部門第一研究ユニット研究主幹の広瀬史子さんと英国立原子力研究所の前主席科学者フイオナ・レイモンさんが研究内容やキャリア形成について講義した。参加者は自身の将来像などをテーマにしたワークショップなどで交流を深めた。東日本大震災・原子力災害伝承館なども視察した。参加している小林祐斗さん(安積黎明高2年)は「医療分野を志している。多角的な視点やコミュニケーション力の重要性など多様な意見に触れて実感できた」と話した。

広瀬さん(右)の講義に耳を傾ける参加者

8/17 福島民報 (上)

8/18 読売新聞 (右)

25 地域 福島 13版 2025年(令和7年)8月18日(月曜日) 読売新聞

福島

復興担う次世代を育成

双葉でワークショップ

国内外の学生ら参加



福島第一原発の廃炉をはじめとする復興に向けた次世代の人材育成を目的にした「国際STEMAMワークショップ」が16、17日、双葉町産業交流センターなどで開かれた。

東電を監督する国の専門機関「原子力損害賠償・廃炉等支援機構」(NDF)が主催。県内外や英国の高校生、米サチューレッツ工科大(MIT)の大学生計約60人が参加した。

学生らは、東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉町)や浅野操業の新工場「タバスーパーゼロミル」を見学。英国立原子力研究所前主席科学者のフイオナ・レイモン氏らの講義を聞き、MITや福島国際研究教育機構(略称・エフレイ)などの研究者らと、キャリア形成や研究の内容について話した。

会津若松市の会津学鳳高校2年の遠藤百恵さん(16)は「国際的に活躍できる監察医を目指している。多様な研究やキャリア、価値観に刺激を受けた」と話した。18日は福島第一原発を視察する。

若者からの質問に答える研究者ら(17日、双葉町で)

福島支局 0120-4343-81